

専徳寺報

第399号

平成24年9月14日発行

浄土真宗本願寺派

専徳寺

〒740-0044 岩国市通津2764
☎0827-38-1124 FAX38-1000

<http://sentokuji-iwakuni.net/>

専徳寺

検索

専徳寺納骨堂受付中

秋讃仏会（彼岸会）法要

併修戦没者追悼法要

御案内

秋のお彼岸をご縁に、恒例の讃仏会法要をとめます。
にぎにぎしくご参詣ください。

日時

9月28日（金）

昼 1時30分～3時30分

※夜座なし

29日（土）

朝 10時～12時

昼 1時30分～3時30分

一講師

本願寺輔教

成

照星師

（太宰府市）

●法座奉仕：通津南地区 ※宜しくお願い致します。

●戦没者追悼法要 28日昼座

●戦没者を追悼し、ご遺族の焼香があります。

●参拝セット（念珠・聖典・式章・聴聞カード）をお持ちください。

●作品募集―秋の展示会（第2回）

絵画・手芸品・工芸品等、皆様の作品を本堂（庫裏）に展示

いたします。法要前々日（26日）までにお持ちください。

※11月の法要まで展示

●歓喜会法要余香（8月28日・29日）

【講師】松林行圓師【参詣数】（27日）昼座103名、夜座40名、（27日）

朝座91名、昼座98名【お鉢米】広田尚敏、中崎清人、山根優【お供物】

藤井則枝、【ご報告】土井トシコ、槇嶋桂子、赤崎八重子、賀屋

加代子、村河久美子、賀屋幸子、秋嶋敏子、藤崎美智子、土井チヅ子、

岡崎晴美、賀屋さとみ

保津の皆様、仏婦理事様、法要総代様、暑い中、ご報謝本当に
有り難うございました。

如来・人・言葉 91

一味の愛

瓜生津隆真（前京都女子大学学長）

九条武子夫人の著「無憂華」に、次の

ような一節がある。

「信仰を特異の存在であるかのように
思っている人たちは、信仰の門にさえた

たずめば、容易になやみの絆は断ちきれ

て、みずからの欲するままに、慰安の光かがやくかのごとく思

う。しかしながら、信仰は一つの奇蹟ではない。宗教はまた気

やすめの力なきなぐさめでもない。信仰は荷せられた悩みを逃

避するのではなく、悩みの肯定のうちに、救いの光にみちびか

れるのである。多くの人たちは、宗教の本質について、『かな

しき錯覚』のもとに自らの想像する驚異の世界を発見すること

ができずして、かえって教えの常凡なるに失望している。」

ここには、信仰とは何か、という宗教の本質についての問い

と答えが的確に示されている。

武子夫人は西本願寺第二十一世大谷光尊師（明如上人）の第

二女として誕生、幼少の頃から才智に恵まれ、しかも浄土真宗

の信仰の薫る中で育てられ、長じて九条家に嫁がれた。しか

し、その生活は平穏なものではなく、深い悲しみと苦悩の中に

あったが、それを乗り越え、全国をめぐる、仏教婦人会の育

成に努められた。さらに、社会奉仕活動にも力をむけられ、恵

まれない人たちのために、日夜身をていして努められ、救援活

動をおし進められた。

ところで、はじめに引用した一節に見られる武子夫人の宗教

観は、浄土真宗の教えと信仰によってつちかわれたものではあ

る。ここでとくに注目されるのは、宗教の本質についての論評

の中で「悲しき錯覚」と言われていることである。それは宗教



とか信仰とかの本質について正しい理解と認識を欠いていることへのきびしい指摘であって、その内容は、宗教を私利私欲のための手段としたり、一時的な気休めや慰めとしたり、心の癒しや苦悩の逃避と見ていることなのであって、これらがすべて宗教についての「悲しき錯覚」であって、正していかなくてはならないのである。

それでは、宗教の本質とは一体何だろうか。武子夫人は信仰をどう考えられていたのだろうか。

浄土真宗の雰囲気の中で育たれ成長された夫人の宗教観は、当然のごとく他力信仰の性格を色濃く反映している。他力信仰とは、夫人みずからが詠まれた次の和歌二首に如実に示されている。ちなみにこの二首は夫人の代表作であり、最後まで夫人自身も愛唱されていたといわれる。

・大いなる もののちからに ひかれゆく
わが足あとの おぼつかなしや
・抱かれて ありともしらず おろかにも
われ反抗す 大いなる 御手に

「大いなるもののちから」や「大いなる御手」は、他力のことを指している。はかりしれない力、すなわち仏（如来、阿弥陀仏）の御力（はたらき）のこと、如来の大智大悲のはたらきであり、仏恩とも、広大の恩徳とも、如来のおかけとも説いている。つまり他力とは如来のかぎりない智慧、慈悲のはたらきのことである。われら仏教者は、このはたらきに、自己平等の真理を知り、その真理に生きることができるのである。この自己平等の世界が夫人のいわれる「一味の愛」の世界である。

寺内だより

み仏にいだかれて「葬儀勤修」

8月14日御往生

藤生 松重 初代様 (78)

喪主 松重 吉英様

8月20日御往生

南町 廣中 眞人様 (76)

喪主 廣中 敏子様

8月26日御往生

浪の浦 高橋 重一 (79)

喪主 高橋千賀子様

8月27日御往生

南岩国 高嶋 美喜枝様 (92)

喪主 高嶋 麗子様

8月27日御往生

藤生 野原 雪枝様 (92)

喪主 野原 弘實様

8月28日御往生

本呂尾 島田 るみ子様 (65)

喪主 島田 昭文様

●ご恩を偲つつ「法事勤修」(8月)

【通津】村岡修二様3・3、村中悟様1、松村利明様

3、【保津】栗津節子様3、金子嘉男様17、土井英和

様13、【青木】岩中敏夫様3、岡村昌子様100・100、【南

岩国】伊藤英子様3、川本淳様50、【市内】藤本忠芳

様1、屋敷一章様17、【黒磯】森重哲夫様3、周管雪

江様25、【大阪】竹田経雄様3

●有難く存じます「永代経志納」

亡き弟をご縁に

金毛拾萬円也 土生 岡 俊雄様

尊い永代経志を賜りました。謹んでお供え申しあげます。

●おめでとうございます

法物下付式(入仏式)

●8月9日 通津 河本 潤子様

お給仕の慶び一入に存じます。

●ご報告いたします

岩国仏婦連絡会議(8月30日 専徳寺)

【参加者】河本多喜子、通谷みえ子、北本時枝

深井絹代、村中恵子

第33回

京都参拝旅行募集

～本廟分骨～

親鸞聖人(ご開山)の墓所である西大谷にお参りし、聖人のおそばに故人の分骨をいたします。

記

期 日 11月25(日)・26(日)
費 用 5万5千円
〆切り 10月末日



前号の訂正とお詫び

【法要余査】「法事勤修」の【通津】に、「稲本松美100」様が抜けていました。

ついたち礼拝(月のはじまりをお寺から) 10月1日(月)／11月1日(木) 午前9時より45分間